

総事業費	783 千円
交付金額	587 千円

地域の実情と課題

- ・女性は、様々な年代で貧困などの生活上の困難に陥りやすい状況にある。
- ・生理用品など生活するうえで必須な物品の入手が難しい女性の存在も報道などで指摘されている。
- ・敷居の高さを感じるなどの理由で相談窓口につながることのできない女性も一定数存在すると思われる。

事業の特徴

対象者の状況に応じて、滞在期間中に居所支援や生活保護手続き支援等を進めるなど、次のステップに進むための支援を行った。

事業の効果

既存の制度ではカバーしきれない支援の必要性が明らかになった。

目的・目標

次のステップに進むために休息が必要な女性に対しその場所を提供し、自己決定できる力の回復を促す。

【数値目標】事業利用者数 10人

【達成状況】5件(9人)

連携団体

- ① 公益財団法人せんだい男女共同参画財団
- ② 市内の女性支援団体

今後の課題

事業が有効に活用されるため、引き続き各窓口担当部署への情報提供に努める

●レスパイト事業

1 開催概要

困難な状況にある女性が、安全な場所で次のステップに向けた自己決定ができるよう、一時的な宿泊場所を提供した。

滞在期間:原則として1人1週間以内(次のステップへの準備期間)

対 象:仙台市内在住、または在勤・在学の18歳以上の女性

実施件数:5件(9人)

2 事業効果及び効果検証

- ・緊急性はあるものの、DVシェルター等の一時保護の枠組みでは対応が難しい方に安全な場所を提供することができた。
- ・親からの虐待や束縛を受けている若年女性の利用も見られた。
- ・通勤や通学、外出もでき、携帯電話も自由に使えるなど比較的緩やかな運用であることが、利用者や支援者から評価されており、既存の制度からは零れ落ちてしまうケースへの支援の必要性を明らかにすることができた。